

はらっぱ

令和6年7月24日
山形市立南沼原小学校
学校だより 第4号
文責 校長：石澤 友章



支え合いの中で 育つはらっぱの子 ～充実した第一節に感謝～

75日間の第一節も間もなく終わろうとしています。落成から一年以上が過ぎた新校舎での生活にもすっかり慣れた子どもたちは、健やかに夏休みを迎えられそうです。

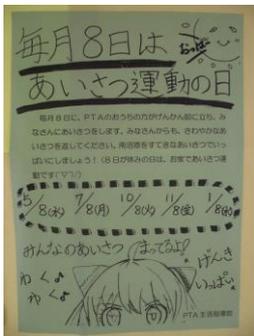
通常の学習に加えて、外部講師の方を招いての学習、修学旅行をはじめとした各学年での校外学習、陸上やブラスバンドの活躍など、挙げればきりがなほどの充実した学びを経験した子どもたちです。そんな子どもたちの日常は、保護者・地域の皆様に支えられていると感じたことを紹介します。



県大会に出場するブラスバンド部

…PTA あいさつ運動…

「8日はあいさつ運動の日」として、PTA生活指導部の皆さんが学校付近で子どもたちに声をかけてくださっています。ありがたいのは、その時の様子をメッセージカードで伝えてくださるところです。7月は「笑顔で登校出来ていてかっこいいですね」「目を合わせてあいさつしてくれてうれしかったです」「6年生はお手本になるあいさつをしてくれる子が多かったです」など、良いところをたくさん見つけてくださいました（昇降口に掲示して子どもたちにもフィードバックしています）。児童会でも通年取り組んでいるあいさつ運動を、PTAの方々にも支えていただいていることに感謝です。



…4年生の福祉学習・下校時の出来事から…

4年生が福祉学習の一環で、障がいを持ちながら生きる方々のお話をお聞きした時のこと。講師の視覚障がい者福祉協会・三浦保志さんが、こんなエピソードを紹介してくれました。「7月初めに、区内を歩いているとき、自分の居場所が少しわからなくなった。その時に通りかかった小学生に『ここは高堂公園のそばの赤い舗装のしてある十字路ですか』と尋ねたところ、躊躇なく『間違いありません』と答えてくれて助かりました。堂々と『南沼原小の4年生です』と教えてくれて感心しました」とのこと。その当事者である4年生の岡田祥汰くんと、学習会の中で再会できた三浦さんはとても喜んでおられました。まさに実生活の中で学習のねらいにせまった岡田くんに話を聞いてみると「下校の途中、白杖を持った人が困っているように見えたから、質問に答えました」とのこと。その誠実な心を誇らしく思いました。折しも、先月は気温の高い日が多く、下校時に体調不良になった児童が通り沿いの店舗で助けていただくということがありました。関係の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、こうして大人も子どもも支え合うはらっぱの学校でありたいと願います。



地域とともにある学校づくり ～第1回学校運営協議会～

7月10日（水）に、今年度第1回目の「学校運営協議会」を開催しました。学習参観日に合わせて開催し、子どもたちが意欲的に学ぶ姿はもちろんのこと、平日にもかかわらずたくさんの保護者の皆様方にご来校いただいている様子も見えていただくことができました。

学校運営協議会委員の皆様をご紹介します（敬称略）

会長 齋藤 博行（南沼原地区町内会連合会長）	副会長 金澤 孝治（南沼原コミュニティセンター所長）
委員 半田 博隆（南沼原地区民生委員児童委員連絡協議会長）	委員 岩瀬 達哉（PTA 会長）
委員 東海林 仁（PTA 副会長）	委員 赤城 洸太（PTA 副会長）
委員 渡邊 和浩（学識経験者・元校長）	委員 石澤 友章（校長）
事務局 黒田 靖彦（教頭）	事務局 田苗 朋子（事務総括）
事務局 軽部 秀明（主幹教諭）	事務局 小熊 陽一（教務主任）

～熟議「子どもたちの登下校の安全について」～

会議の中では、今年度の検討課題でもある「自立登校」をテーマに熟議を行いました。それぞれの立場から様々なご意見をいただきましたが、「子どもたちのために」という視点を大切にすることで一致していたと感じます。以下にその時の主なご意見を紹介します。今後、保護者の皆様からのご意見を頂戴する機会を設けながら、段階的に検討を進めていきたいと思っております。

◇以前も同じように「自立登校」の話があった。「自立登校」「通学班登校」には、それぞれのメリットとデメリットがある。「安全面」「小さな集団で役割を果たしていく」等の理由から、通学班登校が継続した。今すぐ実施することは難しいので、段階を踏む必要がある。検討を進めるのであれば、子どもたちにも考えさせるなど、子どもたちの意見も反映させてはどうか。

◇本校の交通事故の実態はどうか。自分の職場が山十小学区であり、山十小は「自立登校」である。新一年生は入学してしばらく父母と一緒に登校していた。登校中遊ぶ姿が見受けられた。それに対して自分がどのように関与していいか分からなかった。

◇親としては、通学班により学校に連れて行ってもらっていてありがたいが「通学班で何かあったら、班長は大きな責任を感じてしまう」という話を聞いて、なるほどと感じた。「自立登校」を進めるには、保護者の理解が一番大切だと考える。熟議を重ねる必要がある。

◇通学班でトラブルがあると聞くことがある。集団の中、通学班長が一生懸命してくれてありがたい。「集団から個人へ」と時代が変わっていく中では、時代に合わせていく必要もある。

◇我が子が班長と一年生の時、後ろをついていた一年生の娘が姉の背中を見て登校し、つまずいて転び通院したことがある。「自分の安全を自分で確かめる」という点からは「自立登校」は必要。しかし「自立登校」では、友達と遊び始めるなどの別の不安が予想されるので、どのように解決していけばよいか考える必要がある。

夏休みは子どもの自律をうながすチャンス

夏休みが始まります。なによりも事故や怪我等がなく、命を大切に安全・安心に過ごしてほしいことは言うまでもありませんが、「言われてやる」から「自分で決めて、実行する」に転換し、自律した生活習慣を身につけるチャンスと考えることができます。

お子さんの成長のために、おうちの皆様に考えていただきたいこと

◇時間や行動を自分でコントロールする力を高める

- ・就寝、起床時刻を安定させる
- ・メディアに触れる時間の約束をおうちの人と一緒に決める
⇒ 今月、全学級で行ったメディア学習の内容をお子さんにご確認ください
- ・計画する→実行する→振り返る のサイクルを大切にする
学年が上がるにつれて「口や手を出す」から「本人に考えさせる」かわり方を

◇健康な心身を整える自己調整力を高める

- ・バランスのとれた食事、間食のしすぎに気をつける
- ・適度な運動やお手伝いなどで体を動かす